

岐阜農林事務所農業普及課の普及活動状況

平成23年2月28日現在

今月の重点活動

管内関係機関一堂に会し、農業振興、担い手育成方策を議論（営農推進会議開催）

2月10日に管内6市3町、農協、共済組合、農林事務所が一堂に会した岐阜地域営農推進会議を開催した。

会議では、管内の農業振興方策について各機関からの平成23年度の方針の説明後、「水田農業の推進」「主要園芸品目の推進」「担い手育成の推進」3つのテーマに絞って意見交換を行った。水田農業では、戸別所得補償制度において推進すべき園芸品目を管内統一してはどうか。柿の産地維持については、遊休園地の集積や担い手確保が喫緊の課題であることの認識が共有されたなど有意義な議論となった。なお、会議終了後、新規就農者育成の支援組織として「岐阜地域就農支援協議会」の設置について、出席者全員の合意が得られた。



営農推進会議（岐阜総庁）

クレーム対応手法を学ぶ！ 岐阜地域朝市・夜市連合研修会開催

岐阜地域朝市・夜市連合主催（事務局：農林事務所）で、会員の直売所等運営者、出荷者約60名の参加により「クレームへの対応」を中心に研修会を開催した。

大手量販店の担当課長から「食を取り巻く消費者意識とクレーム対応」と題して講演され「苦情への対応は迅速に行い、販売に活かす」などお客様から学ぶ販売者の心構えなど参加者の熱心な聴講の中研修会を終了した。なお、研修会では、生産履歴チェックや食品表示の事例なども併せて紹介された。



研修会風景

主要農作物の生産振興

■ふるさとのじまん農産物づくり（アスパラガス）

春芽の出荷間近（羽島市）

羽島市では、アスパラガスの出荷に向けてハウスの保温時期を迎え、生産者は出荷に向けて作業がスタートした。

羽島アスパラガス部会長のハウスでは、温度と湿度管理に注意し、堆肥や液肥肥料で萌芽を促している。

岐阜県産のアスパラガスの春出荷は珍しく、今年からチラシを作成・配布して、消費拡大を図ることとしている。

3月中旬から岐阜市場を通して、地元の量販店で販売される。



春芽（2/24撮影）

■水稲 平成23年産根尾コシヒカリ生産方針を検討

本巢市根尾地区では、中山間地域の条件を活かした地域ブランド米に取り組んでおり、昨年度は約300俵が生産販売された。

2月18日に、平成23年度の栽培方針に係る役員会が開催され、農業普及課から特別栽培米に向けた肥料試験などを提案し、了承された。

■麦 低温により生育停滞気味

1月からの降雪・低温により生育はやや停滞気味。茎数は平年よりやや少ないが、葉色は維持しており3月に穂肥を行う予定である。普及課では、適期作業による品質確保を注意喚起している。



生育状況（2/24撮影）

■いちご 平成22年産出荷の平準化が進む

平成22年産いちごの出荷量は、1月に低温が続いたため、出荷始めが遅れたが、1月末段階でほぼ前年並みまで持ち直した。

また、数年前から進めている品種「美濃娘」の導入により、出荷量の平準化を進めることが出来た。

県主催の検討会



■えだまめ 平成23年産の作付け開始

ハウス栽培の播種が2月1日から、移植が2月11日から始まった。5～7日間隔で3月まで播種される。トンネル栽培は2月25日から播種がスタートする。品質日本一の岐阜えだまめに向け、技術徹底等普及活動の現場指導が動き出した。

ハウスえだまめ



■大根 期待の大きい大根産地！ J A ぎふ大根部会総会開催

2月23日、J A ぎふ大根部会（則武、鷺山）の総会が、部会員並びに市場等関係者の出席により開催された。総会において市場関係者から「大根の品質が高い当産地に期待！」の発言があり、部会員で意思が確認された。農業普及課からは、研修会において品質の高い大根生産のための土づくり等基本技術について指導を行った。



普及員による研修会

■里芋 面積拡大を目指す！

各務原市を中心に栽培されている里芋を、管内全域に拡大する取り組みをJ Aと普及が一体となって進めている。各務原市で取り組んでいるぎふクリーン農業を基本に栽培者を募集し、平成23年は面積の増加が見込まれている。2月17日に栽培方針等の打合せ会議を行い、25日に栽培希望者が一堂に会した講習会が開催された。農業普及課は技術面での役割を担い、水田転換品目の柱として一層の拡大を期待している。

■柿 剪定、間伐作業が進む！

管内の柿産地では、雪のため遅れていた剪定作業が急ピッチで進められている。また、粗皮削りも始まり、来年度産への期待をかけ作業が進められている。

糸貫・瑞穂柿振興会では1月末に間伐検査が実施され、間伐の徹底が図られている。特に瑞穂市では昨年まで40%程度だった間伐が73%まで向上した。その後、不合格園に対し2月末までに再検査が行われた。

■早生品種「早秋」「太秋」の生産拡大へ！

糸貫柿振興会では「早秋」の栽培及び剪定講習会が2月2日に開催され、「早秋」生産者が剪定等の品種特性について学んだ。一方、真正柿振興会では「太秋」の苗木剪定及び接ぎ木講習会を開催し、新規で導入した「太秋」生産者が参加した。両品種とも年々増加し、産地として期待されている。

■J A 職員の剪定技術向上へ

各柿産地のJ A各支店の果樹担当者を対象に、普及指導員が講師となって剪定技術向上を図るための研修会を実施した。昨年からは支店窓口での生産者への技術的対応をできるようにと開催している。今後は摘らい、摘果等の主要管理を研修予定している。



普及指導員の剪定作業実演

■花き（フランネルフラワー）

■フランネルフラワー研究会岐阜・西濃合同支部研修会の開催

2月25日、大垣市内の2カ所の生産施設を研究会の岐阜、西濃支部会員と県関係者の17名が訪問し、フランネルフラワーの栽培状況を視察した。現地では春の出荷の出番を待つフランネルフラワーを前に会員相互に肥培管理状況について情報交換を行った。その後、室内において22年の出荷状況や試験研究成果についての検討を行った。



研修会風景

担い手の育成・確保

■青年農業士 岐阜・西濃・揖斐地域青年農業士合同研修会の開催

2月8日、岐阜・西濃・揖斐地域の青年農業士等19名が研修会及び交流会を開催した。研修会では、最新研究として県農業技術センターのトマト独立ポット耕栽培及び清流国体に向けた花きの新品種開発状況等を学んだ。また、交流会では互いの農業経営などの情報交換等を行い他地域との親睦を深めた。



農業技術センター視察

■認定農業者 家族経営協定の締結で経営改善 家族経営協定調印式

2月14日、岐阜市で家族経営協定の締結調印式が行われた。今回締結された農家は、枝豆・ほうれんそう・大根の複合経営。後継者の就農を機に、親夫妻と後継者夫妻での経営と生活の目標、就業条件、福利厚生等の取り決めを行った。日頃の想いを文書に書き換え「気持ちを新たに農業に専念します。」と、ご家族の表情は明るい表情であった。



■山田澄夫氏全国優良経営体で表彰

岐阜県農業担い手研究大会にて平成22年度全国優良経営体表彰の受賞伝達式が行われ、個人経営体部門で本巣市の山田澄夫氏が全国協議会長賞を受賞された。